

平成30年7月2日 第190回例会



平成30年11月26日 第191回例会

俳句同好会

代表世話人 小野 野一

世話人 山科 爽風

一般社団法人京都電業協会の俳句同好会も回を重ねて、第百九十一回を開催する事ができました。現在会員九名で句座、吟行を開催しています。初心者を含め入会をお待ちしています。

第百八十九回 平成三十年一月二十九日(月)

兼題 「松の内」「寒波」「節分」「三が日」
句座 「喜久屋 駒井」京都市東山区川端通松原上る

兼題句

妻癒えよ願いをこめて豆を撒く 陵南

◇ 節分に福願うこと百万遍 桜井

三が日俳句三昧過ごしけり 陵南

◇ 節分の豆あてにして酔ひにけり 野一

◇ 故郷のなまり懐かし三が日 桜井

◇ 料亭に負けじ劣らじ妻の節 爽風

三が日過ぎし静けさ戻る居間 野一

◇ 節分のおばけで学ぶ流りかな 進藤

◇ 寒波来し頭沁みある帽子付け 野一

◇ 寒波をも何するものぞ受験生 巽

◇ 松の内師走以上のせわしなさ 進藤

節分は老いも若きもまるかじり 巽

そろそろと寒波の朝に扉開け 紫峰

◇ ひさびさに娘の酌で雑煮かな 爽風

◇ 熱爛に浸りし笑顔三が日 紫峰

第百九十回 平成三十年七月二日(月)

兼題 「雪解け」「新人」「新緑」「蝸牛」
句座 「佳久」京都市中京区押小路通柳馬場西入

兼題句

凜としてバス待つ君にさくら舞う 山本

五月晴緑トンネル加茂の道 紫峰

桜より淡き頬紅初化粧 山本

◇ 新緑の香りに覆われ溪釣り師 野一

◇ かたつむり夕立去りのしのしと 山本

◇ 悠然と何も気にせぬ蝸牛 紫峰

葉一枚に濡れあと左右蝸牛 野一

額彩で出せぬ新緑目を休む 陵南

◇ 日に解けて母なる海へ旅立ちぬ 山本

日向ぼこ気付けばわれも猫背なり 陵南

雨あがりいずこに向う蝸牛 巽

梅雨蹴つて西野ジャパンが猛暑呼び 爽風

新人の賞味期限や夏近し 進藤

庭石や雨にあらわれ蝸牛 進藤

新人と偽わり挨拶4月バカ 宮本

蝉しぐれ傘さす乙女濡らすけり 山本

朱黄色絵画連ねし東山 紫峰

蒼い空澄みきつた空秋の空 野一

猛暑日は図書館行って涼をとる 信吾

◆ 暑すぎて児童等の歓声無き地藏盆 爽風

電気コンロまっかになって粟を焼き 佐伯

街路樹枝をおとされ秋日さす 佐伯

秋空に黒一点のトンビかな 宮本

災害に時間を取られて年の瀬や 宮本

災害のつめあとと深き秋の山 進藤

石畳そつと積りし紅天使 紫峰

今夕は庭の茗荷の収穫祭 爽風

美酒佳肴友と語らう夜長かな 信吾

第百九十一回 平成三十年十一月二十六日(月)

兼題 「猛暑」「災害」「秋空」「収穫」

句座 「田ごと 本店」京都市下京区四条通河原町西入

兼題句

茜空山の錦と競りけり 山本

エアコンもスタミナ切れる猛暑かな 進藤

コンバイン塵舞い上がり秋空へ 野一

追記

俳句同好会の超ベテラン会員である石崎一郎(俳号・陵南)さんから嬉しいはがきを受け取った。「この句会発足第一回目からの生き残りは私一人となり、満九十二歳を無事過ぎて体力的にかなり衰えましたが、最後まで残ったのは俳句です。本を買い、新聞、テレビの俳句番組を見ている。今後とも投句しますのでよろしく。」俳句を一生の友としておられる方があり、世代を超えての心の交流がある。この同好会の醍醐味でもある。

昨年から北陵電工の山本氏が加わり賑やかさが戻ってきた。その上、舞鶴からも新会員が予定されている。益々楽しい吟行、句会を続けてゆこうと思う。

山科 爽風

俳句同好会参加者

正会員

- (株)オリヂナル電設 石崎 一郎 (陵南)
- 三和電気工業(株) 小野 俊一 (野一)
- (株)昭和電工社 進藤 久和
- 東邦電気産業(株) 佐伯 希彦
- (株)日本電気 松井 章 (紫峰)
- 北陵電工(株) 山本 利廣
- 宮本電気工事(株) 宮本 みつへ
- 山科電気工事(株) 山科 隆雄 (爽風)

巽 信吾

(投句) 事務局 桜井 舞子

◆…各回の最多得票句を示しています。
◆…満票を示しています。